

菊川市埋蔵文化財報告書第10集

## 栗林遺跡 2000

(町道西方高橋線道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)

2009年3月

菊川市教育委員会

## 例 言

1. 本書は平成12年度に菊川町が実施した、町道西方高橋線道路整備事業（栗林遺跡）に係わる発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、菊川町教育委員会が調査主体者となり実施した。
3. 調査は、下記の体制で実施した。

調査主体	菊川町教育委員会
調査員	後藤和風（菊川町教育委員会）
作業員	服部喜三郎・高岡三郎・杉山みさ江・戸田和子・高力洋子・黒田恵理
出土遺物整理	高力洋子
4. 本書の刊行に関する事務は、平成20年度に菊川市教育委員会社会教育課が行った。

教育長	石原潔
社会教育課長	妻木久
社会教育係長	泉敬秀
文化財担当	杉井尊器・高木淳
5. 本書の執筆・編集は、杉井が担当した。
6. 本書で報告した実測図・写真及び出土遺物は、菊川市教育委員会で保管している。

## 目 次

第Ⅰ章 調査の経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
第Ⅲ章 調査の方法と経過	
第1節 調査の方法	4
第2節 調査日誌	5
第Ⅳ章 調査の成果とまとめ	5

## 挿表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	2
-------------	---

## 挿図目次

第1図 位置図	1
第2図 遺跡の位置と周辺遺跡	3
第3図 調査区配置図	4
第4図 土層図	5
第5図 全体図	6

## 第I章 調査の経緯

菊川町は人口3万人を数え、気候は温暖で自然環境に恵まれた町である。JR菊川駅を中心に、商業・住宅地を構成し、郊外は農村地帯となっている。近年は静岡・浜松の大都市の中間地であることや東名高速道路菊川インターチェンジなどの交通環境に恵まれていることから、宅地化が進み人口は毎年増加している。特に加茂地区の土地区画整理や西方地区の菊川町運動公園の整備はこの地区にとって大きな開発である。分けても菊川町運動公園は平成15年度に開催される国民体育祭における菊川町の主要会場であり、南北を貫く町道西方高橋線の整備はそのアクセス道路として期待されるものであった。

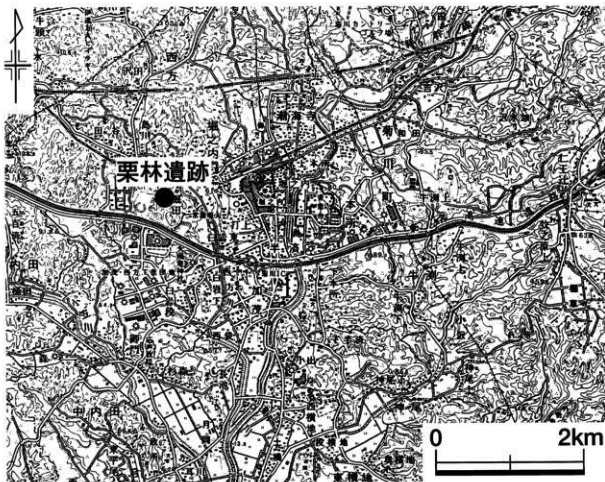
このような状況下、西方地区における文化財保護の協議は平成7年度から進められ、栗林遺跡内の工事に伴う発掘調査を平成12年度年度に実施することとなった。

発掘調査は、県教育委員会の指導のもとで菊川町教育委員会が主体となり実施した。

### 【文化財発掘調査による諸通知】

57条の3届出 平成13年4月9日 県教委の通知 平成13年6月29日 教文2-20号

文化財の認定通知 平成13年4月9日 土器 ポリコンテナ1箱分



第1図 位置図

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史的環境

粟林遺跡の周辺には、縄文時代から中・近世に至る遺跡が数多く分布している。

豆尻遺跡(図2-2)は弥生時代から中世に至る遺跡で、昭和60年・61年に調査が行われ、古墳時代から平安時代にかけての住居址等と、弥生時代中期から中世にかけての遺跡が確認されている。

腰前Ⅱ遺跡(図2-4)は、弥生時代から古墳時代の遺跡で、昭和61年の調査では古墳時代の住居址等の遺構と土師器が多数出土した。

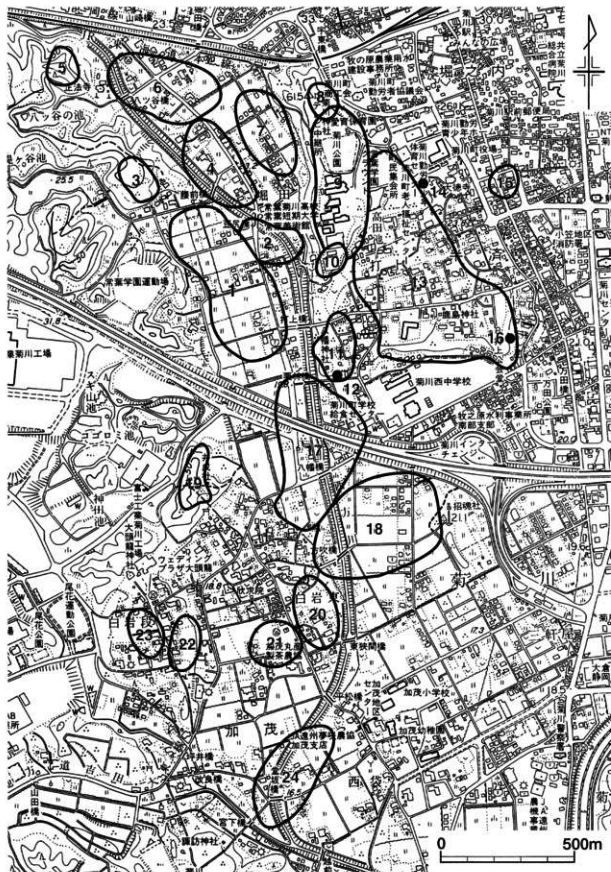
高田ヶ原遺跡(図2-9)は縄文時代から奈良時代に至る複合遺跡で、昭和36・46・48・54・62・平成7年に調査が行われ、弥生時代から古墳時代にかけての住居址が数多く確認されている。

白岩遺跡(図2-17)は弥生時代から中世に至る複合遺跡で、数回に渡り調査が行われ昭和41年の調査では、弥生時代の住居址が発見されている。

方吹遺跡(図2-18)は弥生時代から近世に至る複合遺跡で、平成7・9・10年度に調査が行われ、方形周溝墓等が確認されている。

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代	種別	備考
1	粟林遺跡	弥生、古墳、古代	集落	
2	豆尻遺跡	弥生(後)、古墳、古代	散布地	S60・61年調査
3	堀田山	古墳、中世	城館	
4	腰前(豆尻Ⅱ遺跡)	弥生、古代	集落	S61年調査
5	堀田城	中世	城館	H6年調査
6	堀田遺跡	古代、中世	散布地	H元・5年調査
7	堀田東遺跡	弥生、古墳、平安、中世	集落	H6年調査
8	高田ヶ原古墳群1号墳～2号墳	古墳(中)	古墳	
9	高田ヶ原遺跡	縄文、弥生、古墳、奈良	集落	S36・46・48・54・62・H7年調査
10	高田ヶ原南古墳群1号墳～3号墳	古墳	古墳	S62年調査
11	八幡遺跡	弥生(後)、古墳	集落	
12	八幡古墳	古墳	古墳	
13	打上・鹿島遺跡	縄文～鎌倉	散布地	
14	大徳寺古墳	古墳	古墳	
15	前田遺跡	弥生	散布地	
16	鹿島古墳	古墳(後)	古墳	
17	白岩遺跡	弥生～中世、近世	集落	S22～H13年断続調査
18	方吹遺跡	弥生、古墳、中世、近世	集落	H7・9・10年調査
19	井成山遺跡	弥生、古墳	散布地	
20	白岩下Ⅲ遺跡	弥生(後)、古代	散布地	
21	里遺跡	弥生(後)～中世	集落	S63年調査
22	白岩段Ⅱ遺跡	弥生(後)	散布地	
23	白岩段Ⅰ遺跡	弥生(中)	散布地	
24	西袋遺跡	弥生、古墳、奈良、平安	散布地	



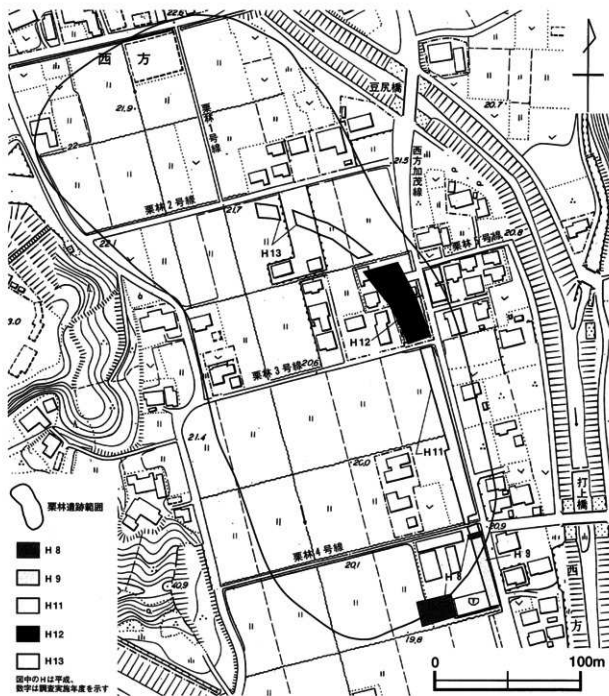
第2図 遺跡の位置と周辺遺跡

### 第三章 調査の方法と経過

#### 第1節 調査の方法

調査は平成13年3月2日から3月30日まで、面積約835㎡を対象に行った。開発地の草木を除去し、機械（バックホウ）により表土を除去し、測量基準杭を設置し、作業員により遺構及び遺物の確認を行った。

第3図 調査区配置図



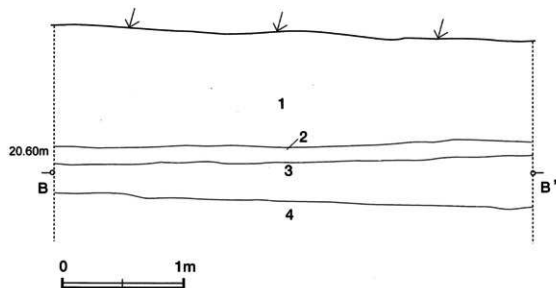
## 第2節 調査日誌

- 平成13年3月2日～7日 除草作業、発掘資材搬入。重機により表土除去後、基本杭を設定。  
平成13年3月8日～10日 精査、検出作業。  
平成13年3月12日～16日 溝状遺構、ピット等検出。  
平成13年3月19日～23日 遺構掘削作業。  
平成13年3月26日～30日 遺物取り上げ、遺構完掘、遺構実測作業。全体完了写真を撮影。

## 第IV章 調査の成果とまとめ

今回の調査で確認されているのは溝状遺構8条、土坑3基、小穴である。  
遺構に伴う遺物が少ないことから年代を推定できる遺構がない。  
出土土器の大半が遺物包含層からの小片であり、遺構に伴うものは少ない。

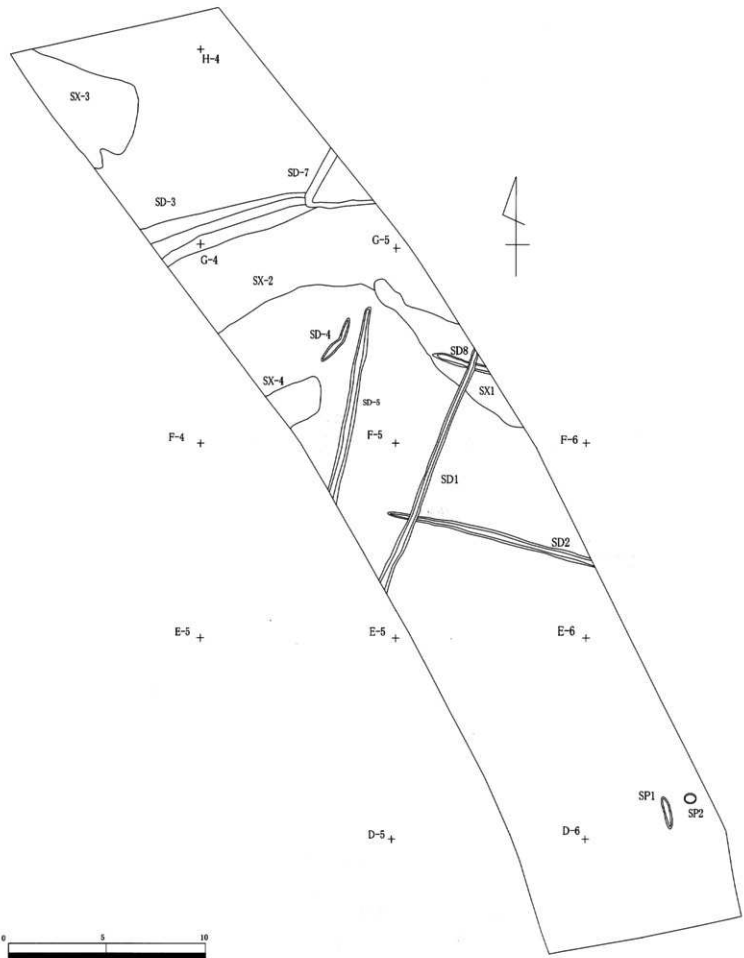
第4図 土層断面図



### 層序

- 第1層 表土 灰黄色土 (2.5Y6/2) 3～15cmの礫を多量に含む。(客土)  
第2層 暗灰色土 (N3/0) しまり、粘性ともやや強い。  
第3層 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりやや弱く、粘性はやや強い。遺物包含層。  
第4層 明黄褐色土 (2.5Y6/8) しまり、粘性とも強い。遺構確認面。





第5图 全体图

参考文献

- 市原寿文 1968 「静岡県小笠郡菊川町白岩遺跡発掘調査概報」〔東名高速道路（静岡県内工事）関係埋蔵文化財発掘調査報告書〕
- 菊川町教育委員会 1997 「白岩遺跡 -スーパーラック店舗建設に伴う発掘調査」
- 菊川町教育委員会 1998 「白岩遺跡A」
- 菊川町教育委員会 2001 「白岩遺跡2001南」
- 菊川町教育委員会 2002 「栗林遺跡2001」
- (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1999 「方吹遺跡」

# 報告書抄録

書 名	栗林遺跡 2000							
副 書 名	町道西方高橋線道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻 次								
シ リ ー ズ 名	菊川市埋蔵文化財報告書							
シ リ ー ズ 番 号	第 10 集							
編 集 者 名	杉井尊器							
編 集 機 関	菊川市教育委員会							
所 在 地	〒 437-1514 静岡県菊川市下平川 6225 番地 電話 0537-73-1114							
発 行 年 月 日	西暦 2009 年 3 月 30 日							
所 有 遺 跡 名	所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
栗 林 遺 跡	菊川町	22446	65	34° 45′ 00″	138° 05′ 00″	2001 年 3 月 2 日 ～ 3 月 30 日	825m <sup>2</sup>	西方高橋線 道路工事
所 有 遺 跡 名	種別	主な時代		主な遺物		特記事項		
栗 林 遺 跡	集落跡	弥生・古墳		土師器・山茶碗				

## 栗林遺跡発掘調査報告書

平成 21 年 3 月 30 日発行

編集 静岡県菊川市下平川 6225

発行 菊川市教育委員会

電話 0537-73-1114

印刷 東洋印刷株式会社



調査前風景



全体写真



調査区北西隅の遺構



調査区北部の遺構



調査区中央部の遺構



調査区南部の遺構